

## 子どもたちへのアンケートから得られた声への対応

### ①結婚支援

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>結婚したいという意思はあるのに、しない人がいるのは勿体ないことだと思う</p>	<p>結婚を希望する人のそれぞれのニーズに合った手法で、結婚をサポートしてほしい</p>	<p>やまぐち結婚応縁センターにおいて、結婚を希望する方一人ひとりをきめ細かく支援するとともに、話し方やマナーなどのセミナー、異性と出会えるイベントを開催します。 (P16「1 結婚に向けた支援の充実」)</p>
<p>出会いがSNSやアプリになっている時代で、そういったものに興味がない人たちをサポートする体制があると将来プランに結婚が入ってくると思う</p>	<p>結婚を魅力的に感じる機会を提供してほしい</p>	<p>結婚するかどうかは、一人ひとりが自分で考えて決めるものです。考えるときの参考になるように、若い人たちが家庭や子どもを持つことのすばらしさを感じることができる機会をつくっていきます。 (P17「2 ライフデザイン構築のための支援」)</p>
<p>結婚する人が減っており、それに付随して様々な問題が発生している。そのため、結婚を魅力的に思ってもらう機会が必要だと思った</p>		
<p>自分は結婚とか子供とか家庭を築くことに魅力を感じているけど、周りの友達とかはお金がかかるだけとか、責任が増えるだけだから結婚をしたくない人が多い</p>		

## ②ライフプランニング

子どもたちの声	ポイント	対応	
結婚の時の話や子育ての仕方など想像も出来ない。未知のことを自分で調べるとするのは難しい	将来の結婚や子育てなどについて学ぶ機会を提供してほしい	<p>中学校や高校に小さな子どもとその保護者が集まって生徒と交流する「学校内子育てひろば」を設けるなどして、若い人が「将来どんな人生を送りたいか」について考えることができるように応援します。</p> <p>また、家庭科等の授業で、結婚や子育てについても考えることができる授業に取り組んでいきます。</p> <p>(P17「2 ライフデザイン構築のための支援」) (P29「③キャリア教育・進路指導の充実」)</p>	
学校は大人になってからのことを学ぶところだから、職業以外のことを学んでも良いと思う		<p>地元企業の人や大学の先生を呼んでいろんな仕事について話してもらったり、職場体験などを充実させ、進路や将来について考えることができるよう取り組んでいきます。</p> <p>(P29「③キャリア教育・進路指導の充実」)</p>	
小さい子どもと触れ合える機会があるといい	自分の進路や将来についてもっと考える時間や場所をつくってほしい	<p>県内にはどんな会社があって、どんな仕事をしているのかもっとよく知ったうえで自分の進路について考えることができるよう、職場体験やバーチャル企業見学会、企業説明動画などで必要な情報を提供していきます。</p> <p>(P29「③キャリア教育・進路指導の充実」)</p>	
自分の進路について考える時間がたくさんあると安心できる		進路だけでなく、どんな大人になりたいかを考える機会をつくってほしい	<p>小学校・中学校・高校を通じて、自分がどのようなことを学び、どう成長してきたかを振り返りながら、子どもたちが自分の将来やどんな大人になりたいかについて考える場を設けていきます。</p> <p>(P29「③キャリア教育・進路指導の充実」)</p>
自分の進路や将来の目標について明確に考えたり想像したりする機会が増えることで何かのモチベーションになったり前向きな行動のきっかけになったりすると思う	様々な仕事について知る機会を提供してほしい		
職場体験など、もっと将来の夢を明確にできるような体験ができるようになるといい			
もっといろんな仕事を知って自分にしか出来ない仕事や自分がやって誰かが喜んでくれる仕事、自分がやってこれが楽しいとおもえる仕事にであえるといいと思う			
職についてあまり知る機会がないので、その場を儲けた方がいいと思った			
勉強して色々な人を助けることができるようになりたいから、もっと色々な職業を知る機会があると良い			
自分は、本当は何がしたいのか考える時間が必要			
いい学校に入っていい会社に就職するための進路講演会だけでなく、どんな大人になりたいかを考える機会があるといいと思う			

### ③安定した雇用

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>自分にあった仕事をしないとやりがいが見つからず、途中でやめてしまう可能性がある</p>	<p>自分に合う仕事を見つけられるようにサポートしてほしい</p>	<p>職場体験などの体験的な学習や、高校入学後の早い段階から働くことの意味や価値、いろんな仕事に関する情報提供や面接の指導などを行う就職ガイダンスを充実させることで、いろんな仕事について知ったうえで進路を選べるよう、サポートします。                      (P29「③キャリア教育・進路指導の充実」)                      また、山口県にどんな仕事があって、どんな企業があるのかをみなさんに知っていただく機会も作っていきます。                      (P17「①県内企業への就職支援」)</p>
<p>やりたいと思える仕事を見つけることは勉強のモチベーションにもなっていると思う</p>	<p>安定した雇用や収入が確保された働きやすい社会を構築してほしい</p>	<p>若い人が安心して働くことができるよう、山口しごとセンターによる就職に向けたいろんな支援に取り組んでいきます。                      (P17「(1)山口しごとセンターによる総合的な支援」)</p>
<p>働きやすい社会にすることが大事だと思う</p>	<p>休暇を取得しやすい職場環境づくりを推進してほしい</p>	<p>こどもと過ごすために休暇を取得しやすい職場環境をつくっていくことを書き加えました。                      働いている人が積極的に子育てに参加できるように、休みをとるしくみを整えたり、休みをしっかりとれるように取り組んでいる企業がどんなことをしているかを県内のほかの企業にも知ってもらい、広げていきます。                      (P46「⑤こどもと過ごすための休暇を取得しやすい職場環境づくり」)</p>
<p>地元で安定した生活を送るための基盤があると良い</p>	<p>過度な時間外労働やハラスメントなどがない環境を整えてほしい</p>	<p>やまぐち働き方支援センターを中心に、効率的に仕事をするための助言など県内企業を支援し、長時間働かないですむように取り組めます。                      また働く場所でもハラスメント(いやがらせ)は許されないことなので、企業に対してハラスメントを防ぐ対策に取り組むよう理解を広げていきます。                      (P45「①機運醸成と普及啓発」)</p>
<p>将来なりたい職業があっても、雇用の状態のせいでなれないのは困る</p>		
<p>休暇が取りやすい会社づくりが必要だと思う</p>		
<p>せっかく就職したのにハラスメントにあったり残業が多かったりすると辞めることにつながるので働く環境を整えてほしい</p>		

子どもたちの声
就職をしたのはいいものもすぐに辞めてしまうという人が多いという話を聞くので、その面に対しての制度があればいいかなと思った
就職のみならず起業のハードルも下げるべき、特に最先端の分野であっても起業できるように支援してほしい
山口県には魅力のある企業がない
都会と地方では職の数も違うし、給料も全然違う
人がいなくて困っている職種をどうにかするべきだと思う
今、給料が少なくてその仕事が人手不足になっているから
女子が働きにくいところがある

ポイント
離職防止や離職後の支援を充実してほしい
起業しやすい環境を整えてほしい
山口県に魅力ある職場をつくってほしい
人手不足の業界の人材確保対策を推進してほしい
女性の就業を支援してほしい

対応
<p>新しく働き始めた人向けに、悩みを共有する場を作っていきます。  (P18「(4)若者との共創による県内企業の魅力向上」)</p> <p>また、仕事をやめた後に自分に合う仕事を再び探すときには、山口しごとセンターが寄り添って相談にのります。  (P17「(1)山口しごとセンターによる総合的な支援」)</p>
<p>自分で新しい仕事をつくって始めることができるよう、専門家によるサポートや勉強会の開催、必要なお金を集めるための支援などについてしっかりと取り組んでいきます。  (P18「(3)創業の支援」)</p>
<p>デジタル化や、環境への負担を減らすことに取り組む企業など、これから成長していくことが期待される企業や、女性や若い人が働きやすい企業を山口県に呼び込んでいきます。  (P18「(2)成長力のある企業の誘致活動の推進」)</p> <p>また、山口県には全国的にも力のある企業がたくさんあるので、企業を紹介するイベントなどでもっと知っていただきたいと考えています。  (P18「(4)若者との共創による県内企業の魅力向上」)</p>
<p>必要とする人を企業が雇うことができるよう、初任給(最初にもらえる給料)を上げたり、若い人から選ばれる企業となるための企業の魅力アップにつながる取組をいっそう充実させていきます。  (P17「(1)若者の所得の向上」,「(4)若者との共創による県内企業の魅力向上」)</p>
<p>女性が働きやすい職場づくりをする企業を支援するとともに、子育て中でも働ける職場の大切さについて経営者等の理解が進むように取り組んでいきます。  (P46「(4)女性が働きやすい職場環境づくり」)</p>

#### ④プレコンセプションケア

子どもたちの声
性や妊娠に関する正しい知識をつける機会があまりなかったので、もっと学べる機会があったらいいと思う
子どもをつくる、できるという認識や責任が甘い若者が多い気がする
性教育をもっと重視するべきである。望まない妊娠で人生のプランが崩れたりすることがある

ポイント
性や妊娠・子育てに関する正しい知識を身に付ける機会を提供してほしい

対応
若い人たちが、自分の生活や健康のことを真剣に考えることで、出産や子育ても含めて健康で充実した人生を送るための取組を書き加えました。関係する人たちとよく連絡をとって協力し、学校などで性教育を含む健康教育ができるよう取り組んでいきます。 (P20「(2)プレコンセプションケアの推進」) また、保健等の授業で、成長に応じて起きる性に関する体と心の変化などについて、正しい情報を伝えていきます。 (P27「②思春期から成人期に向けた保健対策」)

## ⑤不妊症・不育症に関する相談支援や治療

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>近年不妊症で悩んでる方が多い。少子化対策のためにも不妊症に悩む人たちのサポートだったり支援がもっとあるといい</p>	<p>不妊症に悩む方への支援をもっと充実してほしい</p>	<p>不妊について相談したり治療ができるよう、相談体制の充実や、治療費の支援を行います。 (P20「3 不妊症や不育症に悩む人への支援」)</p>

## ⑥母子保健

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>初めて妊娠した場合など、特に不安なことも多く存在するため、母子が安心して頼ることが出来る場所が必要だと思う</p>	<p>妊娠、出産、育児の際に母子が安心して頼ることが出来る場所や環境を整えてほしい</p>	<p>身近な場所で妊娠・出産・子育ての相談ができる「まちかどネウボラ」を増やししながら、専門的な相談もできるように取り組んでいきます。 (P19「①相談体制の整備」)</p>

⑦幼児教育・保育の充実

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>保育園が少ないため保育園に入れることができないということが起きないようにしてほしい</p>	<p>待機児童が出ないように対応してほしい</p>	<p>保育所などを計画的につくり、子どもを安心して育てることができるよう取り組みます。 (P24「保育所等の受入れ体制整備」)</p>
<p>入園がスムーズにできるようになることで共働きが当たり前となってきている現代で両親も余裕が生まれる</p>	<p>近隣や希望する保育園に入れるようにするとともに、入園手続き等を簡素化してほしい</p>	<p>保育所などを計画的につくり、子どもを安心して育てることができるようにしていきます。 (P24「保育所等の受入れ体制整備」) また、ICTを活用して入園手続きなど、子育てにかかる手続きを簡単にして、利用しやすいようにします。 (P23「(2)子育てに係る事務負担の軽減」)</p>
<p>保育園で、アレルギー関連や熱中症などのニュースでよく見るので内容を透明化して、子どもが過ごす環境をきちんと親に伝えてほしい</p>	<p>保育園や幼稚園などに安心して、子どもを預けられるように改善してほしい</p>	<p>事故を防ぐためのガイドラインや、事故が起きたときの手順やルールに基づき、しっかりと対応していきます。 (P51「①幼稚園・保育所・学校等での事故防止対策」)</p>
<p>先生が増えて一人一人対応ができるといいと思う</p>	<p>適切な幼児教育・保育の推進のため、保育士等の処遇改善や、十分な保育士等の確保を図ってほしい</p>	<p>保育園の先生などになるための費用への支援などに取り組めます。 保育園などに先生を多く配置するとともに、先生の仕事を助ける人を育成します。 保育園などの先生の給料が上がるよう、国に求めていきます。 (P42「1 保育士、幼稚園教諭、保育教諭の確保・資質向上」)</p>
<p>保育士の給料を上げて保育士を増やせば保育士の負担も減り不適切保育がなくなり子供も安心して暮らせると思う</p>	<p>保育所等で保育以外の周辺業務に携わる人を増やしてほしい</p>	<p>保育士が子どもともっと関わることができるよう、先生の仕事を助ける人を子育てサポーターとして育てます。 (P43「その他専門人材等の確保・資質向上」)</p>
<p>子供たちと直接関わる保育士さんはきちんと資格のある人に託して、その他事務的な仕事内容を資格がない人に託すなどして「働ける人」も増やしていけるといいなと思う</p>		

⑧学校教育の充実

子どもたちの声
安心して過ごせることで、子どもたちの長所・いいところを伸ばし、一人の人間として成長することができる
誰でも長所はあるから、それをたくさん伸ばして行けるようになればいい。何事にも熱心に取り組めると思う
どれだけ頑張っているでも自分を称賛してくれる人が少ない
みんながあんしんしてがっこうでべんきょうできるといい
勉強をして将来の夢を実現したい
将来に向けてそれぞれが学ぶ環境を作った方がいい
自分のペースにあったスピードで授業を受けられる教室があるといいと思った
個々にあった学習指導があるといい
授業内でもわからないところが多くあるから少なくともわかりやすくすることで学力向上すると思う
楽しく勉強ができれば良い

ポイント
学校が児童・生徒にとって居場所となるよう、安心して楽しく学べる環境をつくってほしい
学ぶ内容が自分の将来にとって必要になることを理解したうえで、勉強したい
個性や特性に応じて学べるようにし、授業がわかりやすく楽しいものにしてほしい

対応
子どもたちの可能性を広げることができるよう、いろいろな年代の子どもたちといっしょに学ぶ機会を充実したり、ホームルーム活動でお互いを尊重し合える環境づくりなどを進めます。 (P28「①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実」)
学習内容と人生が関係することや学ぶ意味や価値を実感できるよう、授業改善の取組を進めていきます。 (P28「①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実」)
一人ひとりの理解が進むように授業改善を進めるとともに、興味や関心があるテーマについて調べ発表する学習など、探究的な学習活動などを通して、楽しみながら「わかる」授業をめざしていきます。 (P28「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実」)

子どもたちの声
倫理観や社会通念などはやはり教育していくことで身につくと思う
多様な価値観に触れる機会の充実を図ることが必要
県の歴史について興味がなかったりする人が多いので自分の県について学校で学ぶ時間を多く設けるべき
学校で確定申告とか税金の種類、手続きの仕方やかを教えるようにすると政治にも関心持てるようになるし、起業しやすくなる
大人になってもネット中どくにならないようにきをつけたい
SNSトラブルは、各家庭の親も管理をしないといけないと思うし、プライベートだから学校は、関与できないというのは、変えていかないと、もっとSNSトラブルの被害が増加していくと思う
タブレットのzoomの積極的な使用。天候が悪い時はわざわざ学校まで行く必要はないと思う
大雨や災害でも勉強出来るといいと思う
教室での授業のみならず、お楽しみ会など、友達を作る機会を与えてほしい。運動会などの行事もコロナ前に戻してほしい
学校行事を生徒が中心となって企画・運営すれば自分の意思をしっかりと伝えられるきっかけにもなると思う
互いに意見を伝えられる学級が大事
学校でクラスメイトとのなかを深める学習があるといいと思う
授業で何を言ってもいいような雰囲気作りが大事

ポイント
広い見識が持てるよう、多様な価値観や社会一般のことをもっと教えてほしい
インターネット、SNS利用などに関する情報(モラル)教育をしっかりとしてほしい
オンライン授業を推進してほしい
授業以外の様々な行事を充実してほしい
それぞれの意見が尊重される風通しの良いクラス運営をしてほしい

対応
豊かな自然や文化などを用いてふるさと山口への理解を深めたり、消費生活センターの相談員を招いて、うその情報でサービスを購入させるなどの消費者トラブルについて学ぶなど、社会に出てから必要となる知識を得られる教育を進めます。(P29「④新たな価値を創造する人材の育成」) また、学校外においても、様々な学びの場を提供し、多様な価値観や倫理観を育む教育を進めます。(P30「③地域における多様な教育」)
SNSでのトラブル等に巻き込まれないためには、デジタル社会において正しく活動するための考え方や態度のもととなる、情報モラルを身に付けることが大切なので、情報モラル教育を進めていくことについて書き加えました。(P29「④新たな価値を創造する人材の育成」)
天候が悪くて登校できないときでも勉強できるよう、1人1台タブレット端末を活用し、一人ひとりの個性に合わせて学びを深める「個別最適な学び」を充実させていきます。(P28「①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実」)
学校ごとに様々な学校行事が実施されていますが、引き続き、地域の人々と共に学び合える活動や子どもたちが積極的に参加したり協力したりできる活動などをもっと充実させていきます。(P30「①地域連携教育の充実」)
子どもたちがお互いの人権を尊重しながら、自由に考えて意見発表や話し合いができる環境づくりを進めており、普段からのクラス運営にも生かしていくこととしています。(P28「②読書・食育・健康づくり・スポーツ・人権教育」)

子どもたちの声
理不尽な校則がなくなってほしい
現在では本当に必要なのか理由が分からないけど守らせないといけない校則がたくさんあってそのせいで、子供がのびのびと過ごせてないと感じた
メイク禁止など、社会で生きていくために必要なことに関する校則を撤廃してほしい
校則の必要性をもっと理解するべき
先生の生徒に対する態度を平等にしてほしい
先生によるえこひいきを無くす
先生と対面で話せる場所がほしい
のびのびと育つためには、先生とのコミュニケーションが大事だと思う。先生との関係が良ければいろいろ相談できる
先生が改善してほしいことのアンケートを実施し、生徒の気持ちを理解する
先生が生徒に寄り添ってくれること
先生がもっと親身に生徒に寄り添えるように労働環境を整えたほうがいいと思う
教員、教育関係の方々の労働状況に生徒でも不安を感じながら過ごしています。まずは政策よりもそちらを優先してほしい
先生が良い環境で働かないと生徒も気を遣うかもしれないからそこから直したほうがいい

ポイント
校則の必要性を一つ一つ検討してほしい
児童・生徒に対し、公平に対応してほしい
先生に相談できる環境をつくってほしい
先生が生徒の気持ちを理解できるよう取り組んでほしい
先生が良い環境で働き、しっかり生徒と向き合えるよう、先生の働き方改革や処遇改善を推進してほしい

対応
校則の見直しについて、書き加えました。 子ども同士が話し合いを行う場や地域の方や保護者との意見交換を行う場をつくるなどし、子どもたち自身が、校則の意味や価値を理解し、自分から校則を守ろうとすることにつながるような取組を進めていきます。 (P32「(4)校則の見直し」)
先生に必要なものとして「教育的愛情」「人権意識」「倫理観」を示しており、子どもたちが誰一人取り残されることのない教育を進めるため、引き続き研修の充実などに取り組めます。 (P43「3 教職員の確保・資質向上」)
生徒指導などの専門性を高める研修をもっと充実させ、子どもたち一人ひとりにさらに寄り添える教職員となれるよう、引き続き取り組んでいきます。 (P43「3 教職員の確保・資質向上」)
先生が授業やその準備にしっかり集中できる環境づくりは大切なことなので、学校における働き方の見直しについて書き加えました。 (P46「(4)学校における働き方改革の推進」)

子どもたちの声
全国の学校全部にスクールカウンセラーをおくべき
どの先生もカウンセラーの資格を持っていれば、気軽に相談ができる
いじめや友達とトラブルがあっても相談しづらいかもしれないからカウンセラーというものがあつたらいいと思う
困っていることを話す事ができるからカウンセラーの来校が必要
直接話すことが苦手な人もいるから生活や人間関係などをきくアンケートをしてほしい
学校内でのアンケートの回数を増やし、生徒や児童が悩みを言いやすい環境をつくるべき
給食を増やしてほしい
給食のご飯をみんなが好きな物をできるだけ多く入れて、それに栄養のある物をいれること
宿題を出しすぎない(サマーワーク等)
生徒の負担の軽減(過度な小テストの実施や宿題)

ポイント
スクールカウンセラーに相談できる環境を整えてほしい
相談することが苦手な人も相談できるよう、定期的に悩みがないかアンケートをしてほしい
給食の質や量を改善してほしい
宿題を減らすなど、生徒の負担を減らしてほしい

対応
県内全ての小・中・高等学校・特別支援学校にスクールカウンセラーを配置しています。引き続き、子どもたちがスクールカウンセラーに相談しやすい環境を整えていきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
各校において定期的に学校生活アンケートなどを実施していますが、相談することが苦手な子どものために、1人1台タブレット端末などを活用した相談体制を整えていきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
子どもたちが望ましい食習慣を身に付けられるよう、学校給食の献立を工夫し、食育に活用するなど、学校給食の充実に取り組んでいきます。 (P28「②読書・食育・健康づくり・スポーツ・人権教育」)
子ども自身が、自分の興味や関心、学習の進み具合などに合わせて、課題の内容や量などを決められることができるよう、1人1台タブレット端末も活用しながら、一人ひとりの個性に合わせて学びを深める「個別最適な学び」に取り組んでいきます。 (P28「①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実」)

⑨いじめ・不登校対応

子どもたちの声	ポイント	対応
いじめは決してあってはならない	いじめを未然に防いでほしい	いじめが起きないように、子どもたちが、お互いを認め合い、尊重できる雰囲気づくりが各校で進むよう、引き続き、取り組んでいきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
今でも傷ついている子や辛くて生きることをやめたいと思っている子もだんだん増えてきている	いじめに早く気づいてあげてほしい	子どもたちのSOSを幅広く受け止めることができるよう、SNSなどの色々な方法により、相談体制の強化にしっかり取り組んでいきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
いじめによって鬱になったりトラウマとして心に傷がついてしまう。傷を修復することは大変なので、いじめを未然に防ぐことは大切	教員のいじめに対する認識を高めるとともに、いじめ対応に関する資質向上を図ってほしい	教職員のいじめの認知や対応に関する研修にしっかり取り組んでいきます。
いじめとかにあったときすぐに気づいてくれると自分が我慢しないで済む	いじめについて、学校を通じず、直接県に報告できる仕組みを作ってほしい	24時間子どもSOSダイヤル(0120-0-78310)では、学校を通すことなく、いじめ等の悩みを相談することができます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
いじめなどに気づくのが遅すぎるからどうにかして欲しい	学校外とも連携し、いじめについて相談できる場所、相談しやすい環境を整えてほしい	スクールカウンセラーや24時間SOSダイヤルでいじめ等の悩みを相談できるようにしています。引き続き、子どもたちが相談しやすい環境をしっかりと整えていきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
担任がいじられている人や傷ついている人に気付いてない		
生徒もそうだけど、先生達がいじめへの意識をもっと高めたらいいと思う		
いじめのアンケートを学校側が見るのではなく、直接、県の教育委員会に行くようにできて欲しい。学校に見られたくない		
いじめがあっても相談するところがあればいじめもなくなると思う		
少しでも話せる相手がいれば心に安心感が生まれると思う		
相談しやすくなるだけでも救われる命が多くなると思う		
児童精神科への受診など、自分の悩みを誰かに吐き出すということを子どもが当たり前に行ける環境をつくってほしい		

子どもたちの声
いじめを発見したら速やかに対応できる体制ができ、いじめに苦しむ子どもがいなくなるという
いじめがあっても仲直りができる話しあえる場所がたくさんあるという
トラブルがあってもそのままにしたら、心のモヤモヤがスッキリしないので、弁護士や、何か解決してくれる人がいる場所があると良いと思う
今の日本の学校だけではいじめを見つけることが難しいので、新たな第三者機関を教育の近くに置いたほうが良いと思う
学校内対処の廃止
いじめにあっている子を知らないふりをするのではなくて、クラスのみならずも注意したりできる集団が良いと思った
みんなとの団結力や仲間意識を高めるとある人がいじめられたりしても、すぐに助けられたり、相談できたりできる
被害者のメンタルケアを行っていないのではないかとと思う。いじめ問題が解決して終わりでは無いと思う
いじめの厳罰化
学校の中でいじめてしまったと言うのが恥ずかしくてその人がずっともやもやしないように安心して言える場所がほしい
いじりといじめの違いを説明する機会があれば良いと思う

ポイント
いじめを発見した場合や相談があった場合、すぐに対応し、解決してほしい
いじめを発見・解決してくれる外部機関等の設置や弁護士の配置(スクールロイヤー)を推進してほしい
みんなで団結力や仲間意識を高め、いじめがあってもすぐ助けることができるようにしてほしい
被害者のメンタルケアをしっかりと行ってほしい
いじめについて、厳重に処罰してほしい
いじめてしまった場合にも相談できる場所がほしい
いじめについて学ぶ機会がほしい

対応
いじめの初期対応については、教職員への研修をしっかりと行います。また、警察などの専門家とともに、少しでも早く解決できるよう取り組んでいきます。
いじめの解決については、引き続き、警察などの専門家ともしっかりと連絡をとりながら、取り組んでいきます。なお、学校へスクールロイヤーを配置することは、今のところ検討していませんが、弁護士からアドバイスをもらえる体制を整えています。(P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
各学校で、いじめを生まない環境づくりを進めるために、子どもたち一人ひとりが「いじめをしない」態度・能力を身に付けるよう、各教科での学習、道徳や特別活動、体験学習などで取り組んでいきます。(P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
スクールカウンセラーなどの専門家と連携しながら、不安や悩みを抱えた子どものケアに引き続き、取り組んでいきます。(P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
いじめをしてしまった子どもに対しては、個別に指導を行うこととしています。また、事案の内容によっては、警察と連携して対処することもあります。(P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
24時間SOSダイヤルでは、いじめをしてしまった人でも、学校を通すことなく、いじめ等の悩みを相談することができます。(P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
各校において、道徳の授業やホームルームの時間を活用しながら、いじめについて理解を深めることができるように取組をすすめていきます。(P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)

子どもたちの声	ポイント	対応
授業クラスやホームルームクラスとは別で、不登校の生徒が自由に勉強できる教室の普及率を上げていくことが大切だと思う	いじめ等で教室に行けなくても、学校内に安心していられる場所がほしい	ステップアップルームの活用など、教室に行けなくても、校内で安心して勉強ができる環境整備に取り組んでいきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
一回学校に行けなくなったことがあるから、保健室登校ができて助かったから	不登校の子どもにもっと寄り添って対応・支援してほしい	スクールカウンセラー等の専門家と連携しながら、組織的に不登校の子どもたち一人ひとりに応じたサポートにしっかり取り組んでいきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
いじめ、友達とのトラブルにあった人がクールダウンできる場所が必要	学校を休んでも(不登校でも)教育が受けられる環境を整えてほしい	別室登校やオンラインによる勉強支援など、不登校の子どもたち一人ひとりに応じたサポートにしっかり取り組んでいきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
不登校の人をほったらかしにしているのが良くないから、不登校の人を助けられるようなサポートをしてあげる	不登校児の居場所をつくるとともに、しっかり情報提供してほしい	学校の中や、学校の外にある教育支援センターなどの居場所づくりを進めるとともに、不登校の子どもたち一人ひとりに応じたサポートにしっかり取り組んでいきます。 (P31「①早期発見・早期対応・相談支援」)
不登校の子に対してもっと具体的に寄り添うような先生がいてほしい。また、家にも勉強を続けられるようにしてほしい		
不登校への理解を深めてほしい		
居づらくなれば逃げてもいいことなどを正しく伝えてあげる必要があると思う		
いじめにあっけし学校に行けなくなっても勉強するところがあれば安心できると思う		
いじめをされて休むことがあるときに勉強できる場所がほしい		
学校に行けなくても勉強はしたいと思っている子が多だろうから不登校の人のための学校(フリースクール)などがたくさんあるといい		
不登校児の居場所支援についてもっと広く知れ渡るような仕組みがほしい		
不登校の人とも仲良くなりたい		

## ⑩ひきこもり支援

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>引きこもりは誰もがなりうるものであるため、身近にも存在することが多い。彼らを支えられる場所は家庭以外にも必要であると感じる</p>	<p>ひきこもり支援を行う場所を整備してほしい</p>	<p>ひきこもりは、本人だけでなく、本人の周りの家族や地域の環境などが複雑に関係しているため、一人ひとりの状況に合わせて、必要な支援につなぐことが大切です。</p> <p>そのため、ひきこもり地域支援センターを県内の各地域に設け、ひきこもりの状態にある人やその家族がすぐ相談できるようにし、一人ひとりの状況に合わせた支援を行っていくこととしています。 (P28「⑤ひきこもり問題」)</p>

## ⑪障害児支援

子どもたちの声	ポイント	対応
障害の有無に関わらず、みんなが自分らしく生きていける社会を作っていくことが大切だと思う	障害の有無に関わらず、差別なく平等な生活を送れるような社会にしてほしい	障害のある人とない人とが支え合いながら共に暮らすことのできる社会になるよう、障害への理解や障害のある子どもとない子どもの交流を進めていくことを書き加えました。 (P25「①障害理解と相互交流の促進」)
障害者も平等に扱おうとそのひとも自信を持つと思う	障害の有無に関わらず、できるだけ同じ環境で一緒に学んだり、活動できるようにしてほしい	障害のある子どもとない子どもが共に過ごし、互いに学び合う経験ができるようにしていくことを書き加えました。 (P25「①障害理解と相互交流の促進」、「②障害児施策の充実」) 障害のある人も、ない人も、等しく学び、遊べるように、保育所などの環境整備を進めます。 (P24「①受け皿整備」) また、障害のある子どもたち一人ひとりに応じた適切な指導や必要な支援がより身近な地域で受けられることができる環境づくりをもっと進めていきます。 (P29「⑤特別支援教育の推進」)
障害があってもさべつしないでみんなと同じように笑ってほしい	障害の程度に応じた適切な教育をしてほしい	障害のある子どもやその家族が身近な地域で必要な支援を受けることができるよう、障害のある子どもを支援するサービスを充実させていきます。 (P25「②障害児施策の充実」) また、障害のある子どもとない子どもが共に学び、それぞれの子どものが、授業内容が分かり、学習活動に参加している実感や達成感をもちながら、必要な力を身に付けていくことができる環境づくりに引き続き取り組みます。 (P29「⑤特別支援教育の推進」)
障害がある人も一緒にみんな遊びたい		
障害があっても他の人となるべく同じ環境で過ごせるのはいいことだと思う		
障害があっても、普通の人と一緒に学習とかができたなら良いと思う		
障害がある子にはその子にあった教育がある。		
どんな人でも、安心して登校できて、安心して勉強できるような学校にしないと将来仕事を選ぶ選択肢などが、もしかしたら少なくなるかもしれない		

子どもたちの声
障害を持っている人に対しての根本的な価値観を見直すための学習が必要だと思う
障害を持った人に対して僕たちはどう接したらいいのか
障害を身近に感じてほしい
障害を持って生まれてきても支援してくれる場所があれば安心して産むことができる
障害のある子を持つ家族の支援を充実してほしい。
障害がある大人、子供を助ける場所があるといい
バリアフリーを増やしてより良い生活ができるように努力すれば良いと思う
しょうがいがある人のためにバリアフリーとかがあったらいいと思う
障害が軽い子でも働ける所を多く作って欲しいです。

ポイント
障害について学ぶ機会を提供してほしい
障害者や家族に対する支援環境を整えてほしい
バリアフリー化を推進してほしい
障害を持つ子が将来働ける場所を多く作ってほしい

対応
<p>障害のある子どもとない子どもが共に過ごし、互いに学び合う経験ができるようにしていくことを書き加えました。  (P25「①障害理解と相互交流の促進」、「②障害児施策の充実」)</p> <p>また、教育においても、全ての子どもたちが共に学び合い、支え合う視点から、障害のある子どもとない子どもが共に活動する取組を進めていくことを書き加えました。  (P29「⑤特別支援教育の推進」)</p>
<p>障害のある子どもやその家族が身近な地域で必要な支援を受けることができるよう、障害のある子どもを支援するサービスを充実させていきます。  (P25「②障害児施策の充実」)</p>
<p>障害がある人にもない人にも利用しやすいような建物や道路の整備を促進する「ユニバーサルデザイン」のまちづくりを進めていきます。  (P50「③安心して外出できる環境整備」)</p>
<p>本プランでは記載していませんが、障害のある人が働くときの支援については、別に作成している「やまぐち障害者いきいきプラン」においてしっかり取り組むこととしています。</p>

## ⑫医療的ケア児への支援

子どもたちの声	ポイント	対応
医療的ケア児でもみんなと一緒に学校や保育園に行くことができたらい	医療的ケア児でもみんなと一緒に学校や保育園に行くことができるよう支援してほしい	日常生活でたんの吸引などのケアを必要とする医療的ケア児とその家族が地域で安心して生活できるよう、関係する機関が連絡を取り合って協力したり、専門的な相談にのることとしています。 また、医療的ケア児が他の子どもと一緒に学んだり遊んだりできるようにするため、看護師の配置などを支援していきます。 (P26「医療的ケア児への支援」)

⑬妊娠・出産、子育てに関する経済的負担の軽減

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>日本で少子高齢化が進んでいるのは妊娠や出産や育児など経済的な負担が多くかかることが原因の一つだと思う</p>	<p>妊娠・出産、子育てにかかる経済的負担を軽減し、こどもを生き育てやすい環境を整えてほしい</p>	<p>国の仕組みも活用しながら、子どもがいる家庭へ手当を配ったり、保育料等を無料にしたり、多くの子どもがいる家庭への支援を充実したりするなど、いろんな取組を進めていきます。 (P23「1 子育て家庭の負担軽減」)</p>
<p>子育てをしているときにお金が足りなくなると2人目を考えるとといった選択肢がなくなると思うので改善してほしい</p>	<p>子どもが希望する進路をあきらめることがないように、学校や教育にかかる経済的負担を軽減してほしい</p>	<p>高校で勉強するための授業料などの教育費を支援したり、県内で働きたい人が大学などで勉強するために借りたお金を返していくことを支援したりするなど、経済的な理由で子どもが希望する進路をあきらめることがないように、子育て家庭のお金の負担を軽くしていくことができるよう取り組んでいきます。 (P23「(1)子育てや教育・医療に係る経済的負担の軽減」) (P39「(1)総合的な貧困対策の推進」)</p>
<p>子育てに対して不安感や負担感を感じやすい世代なので、それをある程度払拭し、社会がバックアップしていくという姿勢を示していくことは大切だと思う</p>	<p>子どもにかかる医療費を軽減してほしい</p>	<p>小さなお子さんがある家庭が安心して医療を受けることができるよう、医療にかかるお金の負担を支援していくこととしています。 (P23「③乳幼児医療費助成」)</p>
<p>金銭的な余裕がなく、自分の行きたい高校に行けないなどの問題があるので解決されるといい</p>	<p>給食費の負担を軽減してほしい</p>	<p>学校給食費の負担については国の法律で定められており、国の動きを見ながら、それぞれの市町で対応を考えていく必要があると考えています。</p>
<p>大学は授業料が高くて大学に行きたくてもいけないからもう少し支援があってもいいと思う</p>		
<p>奨学金もあるが、貸与型では将来の負担が大きい。お金を理由に自身の将来を諦めることがある</p>		
<p>経済的な理由で留学を断念する人がいるので支援してほしい。</p>		
<p>子どもにかかる医療費や教育費などのお金に対しての不安がある</p>		
<p>医療費などが安くなると、小さい子供がいる世帯の人たちには喜ばれるし、成長して学生になってもけがは付き物なので少しでも負担が少ないほうが良い</p>		
<p>給食費を無料にしてほしい</p>		

子どもたちの声
公共施設の無料化
産休・育休中の支援金を県や国から交付してほしい
いろんな地域とかで二人目の子供から～が安いですとかいうけどあれは無駄だと思います。一人目からそういった支援をしないと、一人育てるのが大変だって親戚も言っています
年齢は離れているが子供がたくさんいるという家庭にもいろいろな支援がないと子供は減る一方だ

ポイント
公共施設を利用する際の負担を軽減してほしい
産休・育休中の経済的支援を手厚くしてほしい
多子世帯だけではなく、一人目の子ども(歳が離れた子ども)がいる世帯もしっかり支援してほしい

対応
<p>県の施設を子どもが利用するときの料金を大人の半額や無料にしたりするなど、子どもでも利用しやすくなるように取り組んでいます。</p> <p>さらに、11月の「こどもや子育てにやさしい休み方改革月間」中は、県の一部の施設で、親子で利用する場合に料金を無料にするなど、家族で楽しめる環境づくりを進めています。 (P48「こどもや子育てにやさしい休み方改革の推進」)</p>
<p>原則1歳未満の子どもを育てるために仕事を休んだときは、一定の条件の下で給付金を受けることができます。</p> <p>また、令和7年4月からは、お父さん・お母さんの両方が子どもを育てるために仕事を休んだときに受けられる給付金が新しく始まります。</p>
<p>子育て世帯の負担を軽くするため、1人目のお子さんから保育園や医療に係るお金などの負担が軽くなるように取り組んでいます。</p> <p>そのうえで、多くのお子さんがいらっしゃる世帯の負担の大きさを考え、お子さんが1人の場合よりも上乗せして支援し、子育てを支えていくこととしています。 (P23「子育て家庭の負担軽減」)</p>

⑭ジェンダーの視点、固定的性別役割分担意識の解消

子どもたちの声	ポイント	対応	
「男だから」、「女だから」という考えをなくし、男女関係なく過ごせると安心して過ごせる	社会全体で性別による役割や固定概念を無くしていき、性別に関係なく、ひとりひとりが理解・尊重され、平等に暮らせるようにしてほしい	すべての人が性別に関係なく、個性と能力を十分に発揮できるよう、学校・家庭・地域みんなが協力して、一人ひとりを大切にする教育に取り組んでいきます。 (P28「②読書・食育・健康づくり・スポーツ・人権教育」) また、性別によって「男性は〇〇すべきだ」「女性は〇〇すべきだ」といった考え方を改め、男性が家事や子育てに自分から関わっていくことができるように取り組んでいきます。 (P47「(2)男性の意識改革」)	
性別にかかわらず全ての人が平等で自分を隠さずに自分らしく生きてほしい。友達も増えていいことがたくさんあるようになると思うから			
性差を意識した生活は、お互いにいがみ合いや窮屈さを感じさせると思う			
いまだに男性が働いて女性が育児をするという風潮が残っている			
身の回りにある男女を区別するものをなくしていく事が大切だと思います。学校では制服、トイレのマーク、道具などを変えたり男女混合のイベントを行っていくことが大切だと思います			
制服で男子と女子とかは古いのではないと思う		ジェンダーレス制服の導入を検討してほしい	ジェンダーレス制服の導入については、各学校の子どもたちや保護者の意見を踏まえるなど、状況に応じて適切に判断されます。
トランスジェンダーなどの人が暮らしやすいようにする。そのために制服のジェンダーレス化など			
性に対する偏見、差別的な考えをなくすように学ぶことで、多様な価値観を育てられる		多様な性について学び、理解する機会を提供してほしい	各教科の授業や特別活動といったいろいろな場面で、多様な性について学ぶことができる機会を充実していきます。 また、教職員が性の多様性について正しい知識・理解を深め、子どもたち一人ひとりの思いに寄り添った丁寧な対応ができるよう、引き続き研修を行っていきます。
自分もトランスジェンダーで生きにくさを感じている			
当事者として、先生ごとに男女に対する対応の違いがあるのが気になるので、学校側で対応を同じようにしてほしいと思う		男女に対する対応の違いの理由や、区別について教えてほしい	子どもたちに行った指示や対応をする際に、学校の考え方が、状況に応じて子どもたちにきちんと伝わるように、いろんな教育活動に取り組んでいきます。
男子だから、女子だからという区別を限りなくなくすことが重要だと思う。また区別と差別の線引が難しいので学校としての区別を教えてください			
女子もプール掃除すべき			
自分は、体が男で、心が女だから他の子供たちに相談ができる場所があったら安心できると思う	同じ悩みを持つ子ども同士が繋がることのできる環境や、年齢の近い人に悩みを相談できる体制を整えてほしい	悩みを抱えている方の御意見も踏まえながら、性の多様性を尊重した子どもの居場所づくりが進むよう、取り組んでいきます。	

⑮男性の育児休業の取得促進、家事・育児への参画

子どもたちの声
男性が育児休業を簡単にとれる状況であれば子育てに対する負担が減り子供を産みたいという人が増えるかもしれない
社風や役職、忙しさによって産休育休の取りづらい環境になっていることも少なくない
男性の育児休業取得が促進されることで、育児におけるジェンダーギャップの解消にもつながる
夫婦共働きが主流になってきている中で女性が家事や育児をするべきだと言う考え方は捨てていく必要がある
男女ともに家事や育児に積極的に関与することで、家庭内の負担が均等になり、より協力的な家庭環境が築けると思う
男性の育児休業が進まないのは危機感を持つべき。男性の労働環境の是正も必要。むしろそれから始めても良い

ポイント
男性が育児休業をとりやすい環境を整えてほしい
男性がより責任を持ち、家事や育児に参加するよう、社会の意識を変えてほしい
男性の労働環境の改善に取り組んでほしい

対応
男性と女性が希望どおりに育児休業をとれることが当たり前となるように働きやすい職場環境を積極的につくる企業を支援するなど、環境を整えていくこととしています。 (P45「①企業の自主的な取組推進」) (P47「(1)育児休業取得促進」)
親子で楽しめるイベントを開いたり、夫婦で家事や子育てを楽しんでいる家族を表彰したり、家事の分担について夫婦で考えたり、男性が気軽に家事に参加するきっかけをつくったりすることで、一緒に子どもを育てることのすばらしさについてみんなに理解してもらい、行動に移してもらえるよう取り組んでいきます。 (P47「2 男性の家事・育児参画の促進」)
やまぐち働き方改革支援センターの専門家が企業を訪問して相談に乗ったり、効率的に仕事をして長時間働かないように取り組んで成功した企業を他の企業へ紹介するなどの取組を進めていきます。 (P45「①機運醸成と普及啓発」)

⑩学校等の安心・安全

子どもたちの声	ポイント	対応
これからの将来を怪我などで無駄にさせたくない	学校に危険な場所がなく、けがをしないで安心して活動できるようにしてほしい	<p>これまで、校舎の耐震化や体育館の吊り天井の落下防止対策などに取り組んできました。</p> <p>安全な環境で安心して学ぶことができるよう、普段から危ない場所がないかしっかり点検し、校舎の不具合などが見つかったときは、修理などしていきます。</p> <p>(P51「①幼稚園・保育所・学校等での事故防止対策」)</p>
みんなが怪我をしないような学校がいい		<p>県民のみなさんや関係する団体などと協力して、防犯ボランティアの活動がもっと増えるようにしっかり取り組みます。</p> <p>(P52「②見守り体制の充実」)</p>
安心のために監視カメラなどを取り入れてほしい	安心して登下校できるようにしてほしい 危険情報や対応方法などを周知してほしい	<p>学校や警察は、通学路の交通安全について、道路を管理しているところなどと協力して取り組んでいます。</p> <p>学校では、安全マップの作成などを通して、危険な箇所の情報や対応方法について、周知していきます。</p> <p>警察では、信号機をつける場合は、つける必要があるかどうかやつけたときの効果について、道路を管理しているところなどと協力しながら決めていきます。</p>
見守りボランティアを増やしてほしい		<p>ほかにも、歩行者の安全を守るために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自動車の最高速度を30キロに制限する「ゾーン30」の整備</li> <li>②①と自動車のスピードを落とすための道路の作りを組み合わせた「ゾーン30プラス」の整備</li> <li>③ドライバーに、歩行者優先の意識を高めてもらうための「横断歩道ハンドサイン運動」</li> <li>④児童などが登下校する時間帯のスピード違反の取締り</li> </ul> <p>などを進めていきます。</p> <p>(P51「(1)交通安全対策」)</p>
学校で登下校したときに危ない所があると、もうその道を行きたくないと思う		<p>学校や警察は、通学路の交通安全について、道路を管理しているところなどと協力して取り組んでいます。</p> <p>学校では、安全マップの作成などを通して、危険な箇所の情報や対応方法について、周知していきます。</p> <p>警察では、信号機をつける場合は、つける必要があるかどうかやつけたときの効果について、道路を管理しているところなどと協力しながら決めていきます。</p>
学校の周りの危険なところ(例えば交通量が多いのに横断歩道がないなど)をなくして安全に登校できるようにしてほしい。		<p>ほかにも、歩行者の安全を守るために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自動車の最高速度を30キロに制限する「ゾーン30」の整備</li> <li>②①と自動車のスピードを落とすための道路の作りを組み合わせた「ゾーン30プラス」の整備</li> <li>③ドライバーに、歩行者優先の意識を高めてもらうための「横断歩道ハンドサイン運動」</li> <li>④児童などが登下校する時間帯のスピード違反の取締り</li> </ul> <p>などを進めていきます。</p> <p>(P51「(1)交通安全対策」)</p>
信号機がない所はつける。溝の周りには柵やガードレールをつけてほしい。		<p>ほかにも、歩行者の安全を守るために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自動車の最高速度を30キロに制限する「ゾーン30」の整備</li> <li>②①と自動車のスピードを落とすための道路の作りを組み合わせた「ゾーン30プラス」の整備</li> <li>③ドライバーに、歩行者優先の意識を高めてもらうための「横断歩道ハンドサイン運動」</li> <li>④児童などが登下校する時間帯のスピード違反の取締り</li> </ul> <p>などを進めていきます。</p> <p>(P51「(1)交通安全対策」)</p>

子どもたちの声
サルなどの野生動物が多いので見かけた際はこうしなさいよと言って教えてもらう機会がもっとあればいい
学校の設備などが充実したらもっという
清潔的な学校であれば良い
洋式トイレを増やしてほしい
エアコンの設定温度。あつすぎて授業に集中できない。このままだとほんとに熱中症になる
授業に集中できるように夏は部屋を涼しくしたり冬は部屋を暖かくしてすごしやすい教室にする。
今年の夏は例年より暑いと聞いているので全体的に熱中症対策に気がつかってほしい
災害などのときに安全な逃げ道がほしい
雨などの自然災害によって電車が止まったり、バスの遅延が起こったりなどする日は学校を休みにしてほしい
大雨で危険情報が出たら休む

ポイント
安心して登下校できるようにしてほしい 危険情報や対応方法などを周知してほしい
学校の設備を更新・充実してほしい
エアコンの設置、適切な温度管理等により、快適な環境で学校生活を送れるようにしてほしい
災害時の対応を事前によく検討・対応してほしい
自然災害等で安心して登下校できない可能性がある場合は休校にしてほしい

対応
学校では、安全マップの作成などを通して、危険な箇所の情報や対応方法について、周知していきます。 警察では、人を襲うおそれのある野生動物が現れたという通報があったら、関係するところと協力して、みなさんに注意や避難を呼びかけています。 野生動物は、サルのほか、クマ、イノシシ、シカ、イヌなど種類によって生きる環境が違い、その特性もさまざまです。 そのため、被害を防ぐ方法も動物によって違うので、警察は専門的な知識を持っている機関と協力してみなさんにお知らせしていきます。
学ぶ環境が充実するよう、エアコンの設置やトイレの洋式化などを進めており、引き続きしっかり取り組んでいきます。
暑い中でも授業に集中できるよう、普通教室には空調設備を100%設置しました。より快適な環境で学べるよう、引き続き、家庭科室や音楽室、理科室などの特別教室への整備を進めていきます。
各学校において、災害時の情報の集め方や避難の仕方など、災害や事件・事故が起きたときの具体的な対応についてのマニュアルを作成し、その内容を適切に見直し、改善していきます。 (P51「①幼稚園・保育所・学校等での事故防止対策」)
災害時の休校は、各校長の判断によるものですが、学校や市町の教育委員会に、県からガイドラインを示しています。 公共交通機関の運休等により、登校ができない場合、欠席扱いとせず、安全第一に行動できるよう配慮をしています。

⑰子どもの居場所づくり

子どもたちの声	ポイント	対応
自分らしくありのままでも否定されないところがあるといい	一人ひとりが無理をせず、自分らしくいられ、安心して過ごすことができる居場所を、学校や家庭以外にも増やしてほしい	多くの子どもたちが、学校や家庭以外でも、いろいろな学んだり、体験活動をしたり、遊んだりすることができる安全で安心な居場所を増やしていくことを書き加えました。 (P32「6 子どもの居場所づくり」)
子供は一人一人個性があって、自分を隠さずに、本当の自分を出せる所があると良い		放課後児童クラブの場所をしっかりと準備したり、夏休みなどの間に開設することができるよう支援していきます。 (P25「病児保育・放課後児童クラブの充実」)
いじめで学校にも居場所がないことがあったため、その経験をほかの子にもしてほしくない	放課後や夏休み等に安心してすごせるよう、放課後児童クラブを増やしてほしい	子どもたちが、学校や家庭以外の安全に安心して過ごせる居場所を利用できるよう、いろいろな方法で情報提供していきます。
家に帰っても親がいなかったりひとりで寂しい思いをしている子どもが第3の居場所を見つけ安心して過ごせる場所を増やす必要があると考える		
いじめや、かなしいこと、つらいことがあっても、いつもみたいに、一人で抱え込みたくない。家でも、居場所がほしいし、外でも、近くに居場所があればいいなと思う	学校以外のこどもの居場所についても認識し、そうした居場所について情報提供をしてほしい	子どもたちが、学校や家庭以外の安全に安心して過ごせる居場所を利用できるよう、いろいろな方法で情報提供していきます。
児童クラブなどの場所が増えることでみんなが安心できると思う		
学校に行くという選択肢以外の生き方があってもよいと思うので、そういった機会を提供する場について知りたい。	学校以外のこどもの居場所についても認識し、そうした居場所について情報提供をしてほしい	子どもたちが、学校や家庭以外の安全に安心して過ごせる居場所を利用できるよう、いろいろな方法で情報提供していきます。
いっそのことネット上の関係やグループであっても子供の居場所として認めてあげてほしい		

子どもたちの声	ポイント	対応
一人で抱え込む人に気づけるようにしてほしい	悩みなどを一人で抱え込む子どもに早く気づいてあげられるようにしてほしい	<p>子ども一人ひとりが安全に安心して過ごせる居場所を増やしたり、子どもが安心して悩みを相談できるように、相談できる場所の情報をしっかり発信していきます。</p> <p>学校では、学校生活アンケートや個別面談などで子どもたちの悩みや不安を相談できる機会を設けるとともに、スクールカウンセラーなどの専門家を全ての小・中・高等学校・特別支援学校へ配置したり、24時間子どもSOSダイヤル(0120-0-78310)を準備するなど、先生以外の人にも相談できる場所を、これからはしっかりと準備していきます。</p> <p>警察では、少年に関する「非行・いじめ、犯罪などによる被害」等のいろんな相談をヤングテレホン・やまぐち(083-933-0110)で受け付けています。</p> <p>(P31「①早期発見・早期対応・相談支援」) (P33「(2)子どもの相談窓口」)</p>
悩みを一人で抱えて欲しくない		

⑱社会的養護

子どもたちの声
貧しくても、裕福でも、親族がいなかったとしても、みんなが平等に、幸せな暮らしをしてほしいと思う
貧しい子供や、家庭の事情で親とバラバラになった子供が安心して過ごせる環境があったほうがいいと思う
社会的養護の施設を必要とする児童は想像以上に多く、施設の数、設備共に不十分であると言えるため、さらなる拡充を目指すべき
児童養護施設に住んでいても楽しく過ごしたい
他人事とは思わず助け合う場所はあっていいと思う

ポイント
社会的養護の施設(定員)を十分に確保するとともに、設備を充実させるべき
児童養護施設で楽しく過ごせるように環境を改善してほしい
社会的養護の子どもを社会全体で支える仕組みをつくってほしい

対応
<p>いろんな理由で家族と離れて生活しなければいけない子どもたちが、新しい環境で安心して暮らしていけるようにしていくことについて書き加えました。</p> <p>子どもたちが生活する場として、児童養護施設や里親家庭があります。児童養護施設では、これまでのような大きな建物ではなく、一般的なサイズの家をつくり、一人ひとりを尊重して子どもたちを育てていきます。</p> <p>また、自分の家庭に子どもを迎え入れて愛情を持って育てる里親委託も進めていきます。 (P38「(1)社会的養護の充実及びパーマネンシー保障の理念の徹底」)</p>
<p>県内の児童養護施設では、子どもたち一人ひとりを尊重して育てていくため、これまでのような大きな建物ではなく、一般的なサイズの家を地域に分け、一人ひとりの部屋が個室になるように整備しており、引き続き支援していきます。 (P38「③施設の小規模化・地域分散化・高機能化等」)</p>
<p>子どもの成長にとってそれぞれの家庭で家族と一緒に暮らすことが大切ですが、いろんな理由で家族と離れて生活しなければいけないときは、国や県、市町、児童相談所、学校、警察などいろんなところが連絡を取り合って協力し、社会全体で支えていくこととしています。</p>

⑱児童虐待防止対策

子どもたちの声
虐待やネグレクトなどニュースで流れるたびに胸が痛くなる
子供を持つ＝子育て支援として成功ではない。子供を大切に育て、幸せな家庭を育むことが真のゴール。なので児童虐待の相談件数が増加している今、対策は必要
保護者への支援を行うことで虐待の連鎖に繋がりにくくなっていいと思う
なかなか自分自身では助けを求めることが出来ない児童に十分に支援が行き届くようになって欲しい
虐待は家庭以外の人には気づきにくく、さらに、いじめよりもはるかにデリケートな問題で、到底簡単に誰かに打ち明けることは無理だと思う
親も不安になることもあると思うから相談できるところを増やしたりもっと相談しやすい雰囲気にしてストレスを減らしたりすることも虐待を減らすことができると思う

ポイント
虐待を未然に防いでほしい
助けをもとめることができない子どもに対して、支援が行き届かせてほしい
保護者が子育ての悩みなどに関して気軽に相談できる環境を整備してほしい

対応
<p>小さな子どもがいるすべての家庭を訪問してようすを確認し、支えたり助けたりしなければいけない家庭には、市町や関係するところが連絡を取り合って協力して対応します。</p> <p>また、お母さん・お父さんなどが子育てにつかれたり、病気で子育てができないときには、一時的に子どもを預けることが虐待の予防になるため、書き加えました。</p> <p>子どもだけでなく、保護者への支援も進めていきます。</p> <p>(P36「(1)児童虐待の発生予防・早期発見」)</p>
<p>スマートフォンなどを使って子どもが気軽に相談できるよう書き加えました。</p> <p>虐待が疑われる子どもを発見したときは、法律で児童相談所に知らせることになっていることなどを県民のみなさんに広く知ってもらい、社会全体で児童虐待防止に取り組みます。</p> <p>(P36「(1)児童虐待の発生予防・早期発見」)</p>
<p>お母さんやお父さんなどが子育ての悩みなどについて相談できるセンターを県内のいろんなところにつくったり、スマートフォンなどを使って相談できるよう書き加えました。</p> <p>相談できるところをいろいろと用意し、市町等とも連携して、保護者の不安や悩みを取り除くことができるよう取り組みます。</p> <p>(P36「(1)児童虐待の発生予防・早期発見」)</p>

## ⑳子どもの貧困対策

子どもたちの声	ポイント	対応
経済的な理由で仕方なく夢を諦めなければならぬ子供がいなくなればよいと思う	経済的な理由で子どもが夢や挑戦、進学を諦めることがないように家庭を支援してほしい	子どもが勉強したり進学したりする意欲を高めていけるよう、学習環境の整備や進学に必要な費用の支援などにしっかり取り組みます。 (P39「3 子どもの貧困対策」)
家庭環境に左右され、自分の将来に希望をもてなくなる子どもをなくしたいと思う		
経済的な理由があっても平等に自分の受けたい教育を受けることができる権利がほしい		
勉強したいと思っているにもかかわらず、貧困が理由で夢を諦めてしまい、その生まれた子供も貧困になってしまうなど、貧困の連鎖が考えられる		

②ひとり親家庭の支援

子どもたちの声	ポイント	対応
ひとり親だからこの学校には進学できないなど、行動の範囲が狭まるのが少しでも無くなるとういなると思う	経済的な理由でこどもが進学を諦めることがないよう、ひとり親家庭への経済的支援を行ってほしい	子どもが勉強したり進学したりする意欲を高めていけるよう、学習環境の整備や進学に必要な費用の支援などにしっかり取り組みます。 (P40「4 ひとり親家庭への支援」)
最近の家庭は母子家庭などが多く金銭的な面で夢を諦める人がいるのでそういう人たちを減らしたい		
ひとり親家庭はどうしても負担が多いので、教科書無償支援等のように、経済的な面での支援がもっとあると助かると思う	ひとり親家庭のこどもに寄り添ってあげられる体制を整えてほしい	身近なところで、いろんな相談を受けたり、どんな支援を受けることができるのかなどの情報を提供できるように取り組んでいきます。 (P40「①相談・情報提供医機能の強化」)
私は母子家庭で生活は結構苦しいけど、ちゃんと勉強して普通に生活をしたいし、親の負担を減らしたい	ひとり親への相談体制を整えてほしい	
少しでも子供に寄り添って上げる人がいないと、成長しないかもしれない	養育費確保に対する支援を行ってほしい	養育費の約束や支払いなどの相談に対応します。また、養育費を確実に支払ってもらうための支援にしっかり取り組みます。 (P40「②生活支援」)
ひとり親家庭は、生活をする時に聞きたいことも聞けなかったり、分からないことを支援する必要がある		
養育費をパートナーに払ってもらえず、困窮する家庭がたくさんあると思う		

## ⑫ヤングケアラー支援

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>家庭の手伝いと勉強の両立は、とても負担が大きいので、支援が必要だと思う</p>	<p>ヤングケアラーをしっかりと把握し、勉強や友達と遊ぶ時間が確保できるように支援してほしい</p>	<p>ヤングケアラーへの支援を新たに書き加えました。            専門に相談できる場所を設けたり、いろんなところが協力できるようにしたり、市町と一緒に家庭へ支援したりしてヤングケアラーを早く見つけ、必要な支援につないでいきます。            (P41「5 ヤングケアラーへの支援」)</p>
<p>子供には子どものような生活をさせてあげたいと考えたから、友達とのコミュニケーションの中で成長していくこともあるから支援が必要</p>	<p>ヤングケアラーの問題について詳しく知る機会を提供してほしい</p>	<p>ヤングケアラーとはどういった状態の子どものことなのか正しく理解していくことを新たに書き加えました。            正しい理解を深め、必要な支援に早くつないでいくことができるよう取り組んでいきます。            (P41「5 ヤングケアラーへの支援」)</p>
<p>目が届きやすいように透明化することが必要</p>		
<p>ヤングケアラーなどのことについて詳しく知れる機会を設けてほしい</p>		

【コミュニケーション力の向上、交流・遊び・スポーツの場の拡大について】

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>将来大事になっていくコミュニケーション能力を歳を重ねていくごとにレベルアップさせていくことが大事</p>	<p>コミュニケーション能力向上に向けた教育・支援を行ってほしい</p>	<p>同じ目的を達成するために意見の違いを超えてお互いが協力する機会を設けるなど、コミュニケーション能力の育成もできるように、いろんな教育環境を整えていきます。                      (P28「5 教育環境の整備」)                      学校では、ホームルーム活動での話合いや、色々な人と一緒に課題を解決する活動などを通じて、コミュニケーション能力が向上できるよう、取り組んでいきます。</p>
<p>コミュニケーション能力をあげることが重要</p>	<p>地域の人や異なる世代の方等と交流の機会を確保してほしい</p>	<p>学校運営について話し合う場所に地域の人や子どもたちに加わってもらい、そこで出たいろんな意見を、子どもたちと地域の人と一緒に学ぼうという取組に反映させることで、子どもが地域の人や異なる世代の人たちと交流する機会をつくっていきます。                      (P30「①地域連携教育の充実」、「③地域における多様な教育」)</p>
<p>近所の人と接する場面が多いといい</p>	<p>スポーツする場所や公園等(みんなで遊べる場所)を増やしてほしい</p>	<p>県内には、学校や大学をはじめ公共や民間の施設など3,000を超える多くのスポーツ施設があり、県民のスポーツ活動を支えるとても大事な土台となっています。                      こうした施設をもっと上手に無駄なく使っていくため、施設をよくしたり、利用が増えるように取り組んでいくことについて書き加えました。                      (P50「③安心して外出できる環境整備」)</p>
<p>他校との交流会の機会を増やしてほしい (小・中・高関係なく)</p>	<p>きらら博記念公園だけでなく、県内各地に交流拠点を整備するべきだと思う</p>	<p>学校施設の開放についても引き続き取り組んでいきます。                      (P32「(1)子どもの居場所の確保」)                      また、子どもや子育て中の親が快適で安心して過ごすことができるよう、山口きらら博記念公園などの県立都市公園の整備を進めるとともに、身近な市町の都市公園の整備を進めます。                      (P50「③安心して外出できる環境整備」)</p>
<p>地域の人とかかわる場面を自由参加ではなく学校の行事として設けるほしい。地域の人とかかわることで自分にとっていい影響が受けられると思う</p>		
<p>スポーツする場所をもう少し増やしてほしい</p>		
<p>みんながたのしくあそべるようなところがあつたらいい</p>		
<p>公園の遊具がなくなったりして楽しい場所が減ってきている</p>		
<p>公園などで球技禁止などの制限をかけ自由に遊べる場所が少なくなっているのもっと外で遊べる場所を増やしてほしい</p>		

子どもたちの声
地域のボランティアなどに参加すると人の役に立つことができる
ボランティアや地域のお手伝いなどをすると自分たちの地域のことについてもっと知ることができると思う

ポイント
ボランティア活動の普及啓発・参加促進を図ってほしい

対応
<p>みんなが地域社会の一員として、ボランティア活動に参加することはとても大切なことなので、ボランティア活動の意味や価値などについて理解を深め、参加する人が多くなるように取り組むことについて書き加えました。</p> <p>学校と地域が協力して子どもの育ちを支える仕組みを生かし、子どもたちが自分から積極的にボランティア活動や地域の行事へ参加するなど、地域との交流活動が増えていくよう、支援を続けていきます。</p> <p>(P30「③地域における多様な教育」)</p>

【個性の尊重、自由な環境づくりについて】

子どもたちの声
一人一人の個性や魅力を発揮できる場を作ることが大切だと思う
子供の意見を聞いてほしい、とりいれてほしい
自己肯定感が上がるように自分を肯定してくれ、ほめてくれる人がいることが大切
親が縛ってしまうと子供の才能を潰してしまうから子どものやりたいことを尊重することが大事
いろんなことを制限しすぎないようにしてほしい

ポイント
一人一人の個性や意見を尊重してほしい

対応
様々な取組を進めていくときの考え方として、子ども一人ひとりの人格や多様で魅力ある個性を尊重することについて書き加えました。 (P14 「<取組の視点>」)

【差別・偏見の廃止について】

子どもたちの声
差別せずみんなが明るく暮らせるようにしてほしい
差別なく、学校で楽しく過ごせることが大事
生徒みんなが平等に扱ってもらえるようになってほしい。

ポイント
差別や偏見がなくなるようにしてほしい

対応
誰もが平等に扱われ、差別や偏見を許さない一人ひとりを大切にする明るい学校にするために、子どもたちがお互いの人権を尊重し合える学校環境づくりを進めていくことについて書き加えました。 (P28「①読書・食育・健康づくり・スポーツ・人権教育」)

【こどもの相談体制の整備について】

子どもたちの声	ポイント	対応
<p>包括的な相談ができる支援体制の拡充が必要</p>	<p>いろいろな悩みを学校以外でも相談できる体制を整えてほしい</p>	<p>全ての子どもが、学校以外でも安心して悩みに応じて相談が受けられるよう、専門の相談員が相談にのったり、どんな相談機関があるか知ることができるように取り組んでいきます。</p> <p>教育委員会では、24時間子どもSOSダイヤル(0120-0-78310)など、学校以外に子どもたちが不安や悩みを相談できる場所を準備しています。</p> <p>警察では、少年に関する「非行・いじめ、犯罪などによる被害」等のいろんな相談をヤングテレホン・やまぐち(083-933-0110)で受け付けています。</p> <p>(P31「①早期発見・早期対応・相談支援」) (P33「(2)子どもの相談窓口」)</p>
<p>家庭のなやみ事が相談出来る場所がほしい。家庭のなやみ事は色んな人がこまっていると思う。</p>		
<p>相談出来る場所があるとまた安心して学校に行ける</p>		

【まちづくりについて】

子どもたちの声	ポイント	対応
若者が山口に留まる魅力が少ない	若者が留まるように、まちづくりの面から地域の魅力を向上してほしい	<p>市町が地域と一緒に進めるまちづくりを支援し、地域の魅力を向上します。</p> <p>また、山口きらら博記念公園を、子どもから高齢者まで幅広い世代の県民が集まって交流する拠点として整備します。 (P50「③安心して外出できる環境整備」)</p>
子供が遊べる商業施設などを充実させてほしい		<p>みなさんが住んでいる市や町、バスや電車の事業者と連絡を取り合いながら協力し、買い物や通学などの日常生活に必要な交通手段に困らないように取り組んでいきます。 (P50「③安心して外出できる環境整備」)</p>
過疎化が進んでいる地域に何か、施設をつくったほうがよい	電車やバスなどの公共交通機関を増やしてほしい	
大人も子供も適当な時間での移動手段が少なく、行動が制限されることがあるから。電車やバスなどの公共交通機関を増やしてほしい		
県内の移動が親の車ではなく気軽に1人でも行けるようにすると良いと思う。(電車やバスが出るなど)		

【部活動について】

子どもたちの声	ポイント	対応
部活の地域移行は、距離や部費などの問題が出てきて、平等ではないと思う。今までのように、学校で同じ学校の友達や先輩と部活がしたい	部活動の充実を図るとともに、部活動の地域移行について、現場の意見も聴きながら円滑に進めてほしい	<p>学校部活動の地域移行は、子どもたちが将来にわたって、スポーツや文化芸術活動に親しむ機会を確保することを目的としています。協力してくれる団体等とともに、地域で子どものスポーツや文化芸術活動を支える環境を整えていくことについて書き加えました。                      (P30「③地域における多様な教育」)</p>
部活の時間がのびてほしいと思っているが、今の時代大人のための働き方改革や地域以降等で時間がどんどん少なくなっている。そういうのはきちんと子供の意見を聞いているのか気になる		<p>部活動の活動時間や休養日については、「学校部活動の在り方に関する方針」に定められており、引き続き、学校の先生や協力してくれる指導者の方々にしっかりとお知らせしていきます。</p>
部活などでもしっかりと現代に沿った形で練習したり、ちゃんとした指導者を顧問とかにしてほしい		
土曜日の部活は、やめないでほしい		
部活の休みをもう少し多くしてほしい。部活で精一杯になってしまい勉強が疎かになってしまう		
雪が積もっている日でも雨がたくさん降っている日も学校に来させて部活をやらせてくる	部活動の時間や休養日について適切に設定してほしい	
部活の時間を長くしてほしい		

【その他】

子どもたちの声	ポイント	対応
無理をさせたらその人が自分の生きたいように生きられないと思う	こどもに無理をさせないようにしてほしい	様々な取組を進めていくときに気を付けるべきこととして、子どもなど当事者の意見を聴き、子どもにとって一番いいことが何かを第一に考えることについて書き加えました。 (P14「取組の視点」)
親や学校の先生からの圧などを極力少なくしてほしい。それで不登校になる子も少なくなと思う	こどもに対し、県や市町でどんな支援を行っているのか、しっかりと情報提供してほしい	県の取組など必要な情報がしっかり伝わるよう、わかりやすい情報発信やどんな支援があるかなどについて説明していくことについて書き加えました。 (P77「(3)国、市町及び県民当との連携等」)
県でどんな支援を行っているのか情報を得る方法がわからないので知りたい。	生活習慣の見直しなど、健康に過ごすための支援をしてほしい	乳幼児期から食生活、運動、歯と口の健康をはじめとする望ましい生活習慣を身に付け、将来、がんや心臓の病気などの生活習慣病になることを予防するため、健康づくりにしっかりと取り組んでいきます。 また、栄養について学ぶ機会をつくるなど、学校・家庭・地域が一体となった食育を進めていきます。 (P27「①健やかな体づくり・食育の推進」)
市政の情報などを常に把握しておける場づくり	子どもの家庭環境が守られるよう、親の精神的ケアや体力面のサポートを行ってほしい	家庭環境に関係なく、全ての子どもが安心して健やかに成長していけるよう、子どもの親の就職や生活の状況に応じた相談や必要な支援に取り組んでいきます。 (P39「3 子どもの貧困対策」) (P40「4 ひとり親家庭への支援」)
健康的な生活習慣の促進が大事	家庭教育が充実してほしい	保護者が、家庭において、基本的な生活習慣や他人に対する思いやりの心などを子どもにどのように身に付けさせるかについて学べる機会や、家庭での問題を相談できる場を、PTAやスクールソーシャルワーカーなど地域の人とともに、しっかりとつくっていきます。 (P30「②家庭教育支援体制の充実」)
たくさん食べて、運動して、たくさん寝るなど良い生活習慣を送ること		
食事が大事。食事がないと元気がなくなったり死んでしまう		
食育の指導が大事。インスタントやコンビニのご飯だけだと補えない部分があり、そこをカバーできずに病気になる人を減らしていきたい		
子どもの家庭環境が今後の心の成長に大きく関係してくるため、親の情緒面や体力面のサポートも必要だと考える		
家族がしっかりと善悪の判断を教えてあげ、いいことはしっかりと褒めてあげること		

子どもたちの声
育児のための支援や育児に対する理解を社会全体に増やして子供たちが生きやすい社会を作ることが大切だと思う
安心して子育てができたり子どもがのびのびと暮らせるような社会にしていくことが大切。子どもをうるさいとか迷惑だとか思う人を減らすことが1番大切
休みを増やす。ゆっくりできないし、家族と過ごす時間も減る。
家族との時間を国が作る
休日に家族と触れ合う時間が大事
いじめや、SNSでの誹謗中傷等といった悪口を言ったりすることをやめてほしいと思う
インターネット等を使う上で巻き込まれなくする
搬送先の病院がなく亡くなってしまう人や、医療体制が整っておらず助かるはずの命が助からなくなるという心配がある。
医療機関を充実してほしい

ポイント
こどもや子育てを社会全体で支える機運を高めてほしい
家族と過ごす時間を増やしてほしい
インターネット上のトラブルに巻き込まれないように利用する際に気を付けるべきことなどについて教えてほしい
医療提供体制の充実を図ってほしい

対応
すべての人々が子どもの育ちを支える環境や社会に関わっており、「こどもまんなか」の視点で取組を進めていくことについて、整理しました。 (P13「2 目指す姿と取組の方向・視点」)
親子で一緒に過ごすことができる時間を増やすため、子どもと親と一緒に休めて親子で楽しめる環境を整えたりする「こどもや子育てにやさしい休み方改革」を進めていきます。 (P48「こどもや子育てにやさしい休み方改革の推進」) また、家族とふれあう機会を増やしたり、絆を深めるため、毎月1回「家庭の日」を決めて家族で行事やスポーツに参加したり、一緒に食事をしたりする「家庭の日」運動を引き続き進めていきます。 (P50「(1)気運醸成」)
インターネットでのトラブルを防ぐための授業や、「知らない人に個人情報を教えない。送らない。書き込まない。」「見られたくない内容を教えない。送らない。書き込まない。」など情報社会でのルールを学ぶ授業を、警察や大学の協力のもと、引き続き、進めていきます。 (P52「①犯罪等の被害防止」)
この計画では、小児科・産婦人科について、必要な医療をきちんと受けることができるよう、しくみを整えていくこととしています。 (P21「4 周産期医療の充実」) (P26「①小児医療体制の整備」) その他の医療提供体制の充実については、「山口県保健医療計画」に定めています。

子どもたちの声
図書館の自習席を増やしてほしい
図書館を毎日開くようにしてほしい
図書館をもっと大きくする。読書を薦める
多文化交流があればいいと思います。言葉は通じなくても、人を思いやる気持ちや交流を通して文化を学ぶ事ができるため
外国語で留学生と関わったりするのが楽しかったからもっと留学生と関わりたい
自然環境が大事
自然とふれ合うことも大事と思う
自然災害を最大限防ぐことができたらのびのび育つと思う
すぐに近くの交番があった方がいいです。町の人を助けて安全に過ごせるため
車の運転が危ない人がいて、怖いのでパトロールを増やしてほしい

ポイント
図書館環境の充実を図ってほしい
多文化交流の機会を提供してほしい
自然環境について学ぶ機会や自然とのふれあい等の充実を図ってほしい
防災、減災対策を充実してほしい
学校周辺に限らず、地域の安心・安全を確保してほしい

対応
<p>利用者のみなさんの意見を聞きながら、もっと利用しやすい図書館となるように取り組んでいきます。</p>
<p>ALTや留学生との交流、海外姉妹校とのオンラインも含めた交流など、国際交流の機会の充実に向けた取組を進めていきます。 (P29「④新たな価値を創造する人材の育成」)</p>
<p>環境学習や自然とのふれあいが体験できる取組を進めていくことについて書き加えました。 (P30「③地域における多様な教育」)</p>
<p>地震や大雨などの自然災害は、いつどこで起こるかわからないため、県では防災計画に沿って、市町や消防などと協力して災害に対応することとしています。 地域での助け合いを進めるとともに、県民一人ひとりが防災について正しい知識を持ち、災害時に自分の命を守る行動を取ることができるよう、研修なども引き続き行っていきます。</p>
<p>警察では、限られた人数の警察官でたくさんのことに対応するため、事件や事故の発生状況などいろいろなことをあわせて考え、必要な場所に交番や駐在所を置いています。 交番や駐在所が近くにない地区を含めてふだんからパトロールを行い、事件や事故に対応したり、交通ルールを守らない車の取締りをしています。 こうした活動を続けて、学校や地域と協力しながら、地域のみなさんが安全・安心に過ごせるようにしていきます。 (P52「(3)防犯対策」)</p>

子どもたちの声
少年犯罪を減少させるようにすること
性被害やストーカー被害をなくしてほしい
学生や生徒であっても犯罪にかかわることが増えてきていると感じる。犯罪を起こさない、犯罪に巻き込まれないための情報・知識を得られるようにしてほしい

ポイント
犯罪を起こさない、犯罪に巻き込まれないための対策を推進してほしい

対応
<p>学校では、日常にどんな危険がひそんでいるかを予測する学習教材を作り、各学校で1人1台タブレット端末を使って学ぶことを進めています。(P51「①幼稚園・保育所・学校等での事故防止対策」)</p> <p>警察では、学校などと協力して、少年が犯罪を起こしたり、犯罪に巻き込まれたりしないように、みなさんへ呼びかけています。</p> <p>また、地域のみなさんや関係するところと協力して、違法・有害なウェブサイトを見ることができないようにするフィルタリングの必要性やインターネットの危険性などを理解してもらうために活動しています。</p> <p>防犯教室、防犯訓練の充実にもしっかり取り組みます。(P52「①犯罪等の被害の防止」)</p>